教職実践演習（中・高）

科目ナンバリング　ESS-403
教職　　選択　　2単位

三村　　明

1. 授業の概要（ねらい）

本科目は、4年間の教職課程で学んできた教科に関する科目及び教職に関する科目の知見を総合的に結集するとともに、教育実習等で得た学校現場の視点を取り入れながら、その内容を整理統合する授業である。

具体的には

・履修カルテ、実習日誌などを活用した、教員としての自己の資質能力、課題の把握

・模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、生徒の反応を生かした授業づくり、協力して取り組む姿勢を育む指導法等の再確認

・教育実習等の経験を基に、学級経営案を作成し、実際の事例との比較等を通じて、学級担任の役割や実務、他の教職員との連携協力の在り方等の確認

・いじめや不登校、特別支援教育等、今日的な教育課題に関しての役割演技（ロールプレイング）や事例研究

などをグループでの演習形式で実施します。

2. 授業の到達目標

①4年間の教職課程の集大成として、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて確認できる

②履修を通じて、将来、教員になる上での自己の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る

3. 成績評価の方法および基準

演習形式の授業を行うため、演習への参加の様子やそのまとめとしての提出物、グループディスカッションでの発言の状況などを総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特になし。必要に応じて授業内で教員が指示する。

5. 準備学修の内容

①教育実習終了後の履修となるので、適宜、実習日誌の記載事項や指導教員からの助言の読み直しを行うこと

②履修カルテへの記載などを通して教職に就くための自己の資質能力について把握をしておくこと

③必要に応じて過去に履修した教科に関する科目・教職に関する科目のノートやレジュメなどを読み返すこと

6. その他履修上の注意事項

教職実践演習は、教職課程の総まとめの授業であり、教職に就くことを希望する学生が受講する科目である。したがって、単に履修するだけではなく、自己の資質能力を正しく判断し、必要に応じてそれを伸ばしていこうとする積極的な学習態度が求められる。

授業は校種・免許種別のクラス編成となる。したがって、自由に履修登録をすることはできません。クラス指定と履修登録の方法などは、後期開始までに個別に連絡するので、その指示に従って履修登録をすること。

本学の理想とする教師像に向かって積極的に努力をして下さい。怠る場合は、単位を認められません。

7. 授業内容

【第1回】　共通ガイダンス―目的理解、教職の意義・教師の使命について―
【第2回】　教育実習のふり返り①―カルテ・実習日誌を用いた自己分析・意見交換―
【第3回】　教育実習のふり返り②―グループワークによる課題整理・発表―
【第4回】　生徒指導・学級経営の課題
【第5回】　特別支援教育の課題
【第6回】　教科専門性の向上①―教科内容の学問的・科学的理解を深める（1）―
【第7回】　教科専門性の向上②―教科内容の学問的・科学的理解を深める（2）―
【第8回】　教科専門性の向上③―授業構成・指導方法と関連を図る―
【第9回】　授業構成を考える―学習指導案の検討―
【第10回】　授業力の向上①―模擬授業・相互批評―
【第11回】　授業力の向上②―模擬授業・相互批評―
【第12回】　授業力の向上③―模擬授業・相互批評―
【第13回】　授業力の向上④―模擬授業・相互批評―
【第14回】　教員としての社会性・対人関係のあり方を考える
【第15回】　まとめと評価―教職の意義・教師の使命の再焦点化―